

第46回部落解放・人権西日本夏期講座
 「ロシアの調べ〜被爆ピアノ平和コンサート〜」を聞いて

6月17日、リモートではありましたが、茶畑の人権交流センターで被爆ピアノの音色を聴くことができました。

『原爆』、その恐ろしい響き、一瞬にして、何万という人々の日常生活、人生、夢、希望をも奪い去ってしまった。人間だけでなく、草や木、そして、ピアノの。あれから70年以上たった今も何世代にもわたり苦しみ続けている多くの人々。

被爆ピアノは、私たちにたくさんの勇氣と希望、逞しさを与えてくれました。被爆ピアノ（ピカドピアノ）とは、爆心地から3km以内にあったピアノをそう呼んでいるそうです。当時は、家一軒買えたほどの高価なものでした。底が曲がり、爆風で傷ついたピアノ。修復に携わっておられるピアノ調律師の矢川光則さんの話では、ピアノを引き取る時にはみな号泣されるそうです。もう、家族の一員なのです。折れ曲がった線、曲がりくねった鍵盤、どれもこれも愛情を込め、残せるものは最大限生かし、誠心誠意復元に務めるそうです。矢川さんは、ただ単に復元するだけでなく、たくさんの方々の思いを、平和への願いを後世に、永遠に繋ごうとしておられます。その音色は、とても力強く私の胸に深く、鋭く、突き刺さりました。自宅敷地内に、「被爆ピアノ資料館」をオープン予定とのこと、ぜひ訪ねてみたいと思いました。最後に、今日の日本では、平和が身近にあり過ぎて当たり前のように感じているのは私だけではないのか？

2021年1月「核兵器禁止条約」が発効となりましたが、国連安全保障理事会の常任理事国で核保有国のアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の5カ国は、反対の姿勢をとっており、日本も加盟していません。このことに納得がいかず、どうにかならないものかと悩む日々が続きそうです。そのときは、この、被爆ピアノの音色を思い出し、元気をもらおうと思っています。

1998年に持ち込まれたピアノが修復する過程で被爆の惨禍をくぐり抜けたピアノであることがわかり、3年後の2001年の演奏会では想像以上の反響があった。その後、被爆ピアノを使ったコンサートは全国に広がり、全国47都道府県、コンサートは大小合わせて2,000回以上、年平均150本以上のコンサートが行われ、被爆地を語り継ぐ人が少なくなくなる中で、平和の尊さを違う形で伝える活動が行われている。また、全国に被爆ピアノの音色を届ける活動が映画化もされている。

「被爆ピアノの活動」

1998年に持ち込まれたピアノが修復する過程で被爆の惨禍をくぐり抜けたピアノであることがわかり、3年後の2001年の演奏会では想像以上の反響があった。その後、被爆ピアノを使ったコンサートは全国に広がり、全国47都道府県、コンサートは大小合わせて2,000回以上、年平均150本以上のコンサートが行われ、被爆地を語り継ぐ人が少なくなくなる中で、平和の尊さを違う形で伝える活動が行われている。また、全国に被爆ピアノの音色を届ける活動が映画化もされている。



第4回
 みんなの人権セミナー兼
 心の健康づくり講演会

「地域で認知症の人が社会参加をするために私たちができること」

◆日時&場所

9月17日（金）19時〜20時30分
 保健福祉センターだいでせん

◆講演団体 若年認知症本人グループ「山陰ど真中工房」

◆定員 30人 コロナウイルス感染症対策のため事前申し込みが必要です※定員を超えた場合は、お断りする場合があります。

◆申込締切 9月9日（木）

◆その他

①託児、手話通訳等を希望される場合は、人権推進室に申し込んでください。

②コロナウイルス感染症の状況によっては、中止等にさせていただきます。

◆申込及び問合せ先 福祉介護課人権推進室（人権交流センター内）

☎0859-54-2286
 ☎0859-54-2413